

Symantec NetBackup™ Appliance アップグレードガイド

リリース 2.6.1.2

NetBackup 52xx、5330



Symantec NetBackup™ Appliance アップグレードガイド

マニュアルバージョン: 2.6.1.2

法的通知と登録商標

Copyright © 2015 Symantec Corporation. All rights reserved.

Symantec、Symantec ロゴ、チェックマークロゴ、および NetBackup は、Symantec Corporation またはその関連会社の、米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

このシマンテック製品には、サードパーティ（「サードパーティプログラム」）の所有物であることを示す必要があるサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。サードパーティプログラムについて詳しくは、この文書のサードパーティの商標登録の付属資料、またはこのシマンテック製品に含まれる TRIP ReadMe File を参照してください。

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Symantec Corporation からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

Symantec Corporation が提供する技術文書は Symantec Corporation の著作物であり、Symantec Corporation が保有するものです。保証の免責: 技術文書は現状有姿のまま提供され、Symantec Corporation はその正確性や使用について何ら保証いたしません。技術文書またはこれに記載される情報はお客様の責任にてご使用ください。本書には、技術的な誤りやその他不正確な点を含んでいる可能性があります。Symantec は事前の通知なく本書を変更する権利を留保します。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商業用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202「Rights in Commercial Computer Software or Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

弊社製品に関して、当資料で明示的に禁止、あるいは否定されていない利用形態およびシステム構成などについて、これを包括的かつ暗黙的に保証するものではありません。また、弊社製品が稼動するシステムの整合性や処理性能に関しても、これを暗黙的に保証するものではありません。

これらの保証がない状況で、弊社製品の導入、稼動、展開した結果として直接的、あるいは間接的に発生した損害等についてこれが補償されることはありません。製品の導入、稼動、展開にあたっては、お客様の利用目的に合致することを事前に十分に検証および確認いただく前提で、計画および準備をお願いします。

Symantec Corporation
350 Ellis Street
Mountain View, CA 94043

<http://www.symantec.com>

目次

第 1 章	ガイドの紹介	6
	NetBackup Appliance アップグレードガイドについて	6
	NetBackup Appliance バージョン 2.6.1.2 でサポートされるアップグレード パス	7
第 2 章	アップグレードプロセスの計画	8
	アプライアンスアップグレードの一般的なガイドラインおよびベストプラクティ ス	8
	アプライアンスアップグレードのハードウェア要件	11
	アプライアンスアップグレードのソフトウェア要件	12
	注意事項と既知の問題	14
第 3 章	ソフトウェア更新のインストール	16
	アプライアンスのソフトウェアリリース更新をダウンロードする方法	16
	NetBackup Appliance Web Consoleを使用した NetBackup Appliance へのソフトウェア更新のダウンロード	17
	NetBackup アプライアンスへのソフトウェア更新の直接ダウンロー ド	17
	クライアント共有を使用した NetBackup Appliance へのソフトウェア 更新のダウンロード	19
	NetBackup Appliance Web Consoleを使ったアプライアンスソフトウェア 更新のインストール	22
	NetBackup Appliance Shell Menu を使用したアプライアンスソフトウェア 更新のインストール	26
	アプライアンスアップグレード後の確認	29
第 4 章	トラブルシューティング	30
	通常のアップグレードに関連する問題のトラブルシューティング	30
	NetBackup Appliance のログファイルについて	34
	[ログファイルを収集 (Collect Log files)]ウィザードについて	36
	Support コマンドの使用によるログファイルの表示	37
	Browse コマンドを使用した NetBackup Appliance ログファイルの参 照場所	38
	DataCollect コマンドを使ったデバイスログの収集	40

VxMS ログの有効化および無効化	42
アプライアンスパッチのログファイルについて	43
NetBackup Java のアプリケーションに関する情報の参照場所	43
索引	46

ガイドの紹介

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup Appliance アップグレードガイド](#)について
- [NetBackup Appliance バージョン 2.6.1.2](#) でサポートされるアップグレードパス

NetBackup Appliance アップグレードガイドについて

このガイドは、NetBackup Appliance Web Consoleおよび NetBackup Appliance Shell Menuを使用してNetBackup Applianceをアップグレードするための情報を提供します。また、アップグレードプロセス全体に関連する問題をトラブルシューティングするための情報も提供します。

このガイドを利用すると、次のタスクを完了できます。

- アップグレードの要件を分析します。
- 一般的なガイドラインおよびベストプラクティスを理解して順守します。
- アップグレードプロセスを完了するための手順を実行します。
- アップグレードが失敗した場合、関連ログを参照することで、コア問題を識別するための関連情報を特定します。
- トラブルシューティングのベストプラクティスを実施することで直面した問題を解決します。

NetBackup Appliance ソフトウェアをアップグレードしたほうがよい理由

以下に、アプライアンスのソフトウェアを最新に保つ主な理由について説明します。

- ソフトウェアアップグレードでは、機能強化および新機能を提供します。この機能強化により、パフォーマンス、効率性、および生産性が向上します。
- ソフトウェアのアップグレードでは、以前のソフトウェアバージョンで発生した問題のいくつかに対応し、その問題を修正します。

- ソフトウェアアップグレードには、構造的に高度なバージョンのソフトウェアが含まれている場合があります。この高度なアーキテクチャは、パフォーマンスを向上する新機能および機能強化という形式で利用できます。
- ソフトウェアアップグレードには、脆弱性に対応して排除するのに役立つ重要なセキュリティ更新が含まれています。
- ソフトウェアアップグレードにより、システムは最適化され、効率性を最大化できるようになります。
- 使用するアプライアンスのサポートスタッフは最新の機能および問題に精通しているため、サポートを効果的に提供できます。

NetBackup Appliance バージョン 2.6.1.2 でサポートされるアップグレードパス

次のアップグレードパスがサポートされます。

- バージョン 2.5.x から 2.6.1.2 への直接アップグレード

メモ: アプライアンスサーバーの現在のバージョンが 2.5 より前の場合は、アプライアンスバージョン 2.6.1.2 に直接アップグレードできません。最初にバージョン 2.5 にアップグレードしてから 2.6 ソフトウェアラインにアップグレードする必要があります。

- バージョン 2.6.0.x から 2.6.1.2 への直接アップグレード
- バージョン 2.6.1 または 2.6.1.1 から 2.6.1.2 への直接アップグレード

2.6.1.2 リリースの新機能および拡張機能については、『Symantec NetBackup™ Appliance リリースノート』を参照してください。

p.8 の「[アプライアンスアップグレードの一般的なガイドラインおよびベストプラクティス](#)」を参照してください。

p.12 の「[アプライアンスアップグレードのソフトウェア要件](#)」を参照してください。

アップグレードプロセスの計画

この章では以下の項目について説明しています。

- [アプライアンスアップグレードの一般的なガイドラインおよびベストプラクティス](#)
- [アプライアンスアップグレードのハードウェア要件](#)
- [アプライアンスアップグレードのソフトウェア要件](#)
- [注意事項と既知の問題](#)

アプライアンスアップグレードの一般的なガイドラインおよびベストプラクティス

NetBackup Appliance ソフトウェアのアップグレードを容易にするには、ソフトウェアのアップグレードを実行するためのいくつかのガイドラインに従うことを推奨します。

アップグレードの準備

- ソフトウェアをアップグレードするための、アプライアンスのダウンタイム期間を特定します。アップグレードプロセスでは、プロセスを完了するために必要な想定時間を示します。プロセスを進めるか、別の時間に再スケジュールして作業を続行するかを選択できます。
- 次の操作を実行することを推奨します。
 - ご使用の環境を変更する前に必ず完全なディザスタリカバリ (DR) バックアップを実行します。
 - ご使用の環境が常に最新版とパッチレベルを実行していることを確認します。
 - 定期的なリストアのテストを実行します。

- 最新の製品の問題と更新を入手するために、技術記事を購読します。
- アプライアンスのアップグレードは、従来の **NetBackup** アップグレードと同じ順序で実行します。マスターサーバーの更新から開始し、次にメディアサーバーアプライアンスを更新します。
- 従来の **NetBackup** マスターサーバーがメディアサーバーアプライアンスとともに使われる場合は、そのマスターサーバーにはメディアサーバーアプライアンスと同じか、それ以降のバージョンの **NetBackup** がある必要があります。たとえば、メディアサーバーアプライアンスを **NetBackup Appliance** バージョン **2.6.1.x** または **2.6.0.x** にアップグレードする前に、まずマスターサーバーを **NetBackup** バージョン **7.6.1.x** または **7.6.0.x** それぞれにアップグレードします。
- アプライアンスのメディアサーバーアップグレードの間、**NetBackup** マスターサーバーがアクティブで動作していることを確認します。さらに、**NetBackup** のプロセスがマスターサーバーとメディアサーバーの両方で開始されたことを確認します。
- マスターサーバーをアップグレードする前に、すべてのジョブおよび **SLP** (ストレージライフサイクルポリシー) を一時停止しているかを確認します。メディアサーバーのアップグレードのために、現在動作しているすべてのジョブを停止し、アップグレード中に開始される可能性のあるジョブを一時停止します。アップグレード中にメディアサーバーでジョブが開始されないようにする必要があります。
- アップグレードプロセスが失敗してロールバックした場合は、`Main_Menu > Manage > Software > UpgradeStatus` コマンドを使って、ロールバックプロセスが完了しているかを確認する必要があります。その後、アップグレードプロセスを再始動する前にアプライアンスを再起動する必要があります。

ソフトウェアのアップグレード処理を開始する前に

- 複数のメディアサーバーをアップグレードする計画の場合は、各メディアサーバーについてアップグレードの手順を実行する必要があります。
- **Web** サービスは、数分間またはアップグレードプロセス全体を通して利用できない可能性があります。**Web** サービスが利用できなくなる時間の長さは、ダウンロードするソフトウェアの更新の種類によって決まります。したがって、**Web** サービスがリストアされるまで **NetBackup Appliance Web Console** を使うことはできません。
Web サービスが利用できない間、**NetBackup Appliance Web Console** を再度開くことができるようになるまでは次のコマンドを実行してアップグレードプロセスを表示できます。

```
Main > Manage > Software > UpgradeStatus
```

メモ: このコマンドを利用できるのは、バージョン **2.6.0.1** 以降からのアップグレードのみです。**2.5.x** からのアップグレードには使うことができません。

- アップグレードプロセス中は、システムが複数回再起動することがあります。システムが再起動している間、再起動プロセスが完了するまでは **NetBackup Appliance Web Console** とサーバーへの **SSH** ベースの接続は利用できません。シマンテック社のリモート管理インターフェース(または **IPMI**)を使うと、システムの再起動の状態を表示できます。さらに、`/log` の下にログを表示したり、アップグレードプロセス完了時にアプライアンスが電子メールを送信するまで待機することもできます。

メモ: 2.5.x からのアップグレードプロセスではアップグレードに少し時間がかかり、アップグレードが完了するまでアプライアンスが再起動されない場合があります。

- **NetBackup Appliance** をアップグレードすると、ファイバートランスポートメディアサーバー (**FTMS**) は自動的に再起動します。このため、**SAN** クライアントコンピュータがファイバートランスポート (**FT**) デバイスに再接続することを許可するためにファイバーチャネル (**FC**) ポートを再スキャンする必要があります。アップグレードの手順には、**FC** ポートの再スキャン方法に関する詳細が含まれています。
- アプライアンスを **2.5.x** リリースシリーズにアップグレードする場合は、アップグレードプロセス完了をマーク付けする特に最初の再起動まで、接続が切断されないようにするための対策を取ることを推奨します。最初の再起動後、安全に取りはずすことができ、取りはずしてもソフトウェアアップグレードには影響しません。アップグレード中に接続が切断されると、障害が発生します。アプライアンスのアップグレードに使っているコンピュータは、次のイベントが発生しないように設定してください。
 - コンピュータがスリープになる状態
 - コンピュータがシャットダウンしたり、電源が喪失する状態
 - コンピュータのネットワーク接続が切断される状態

メモ: アップグレードが失敗すると、アップグレードプロセスはすべてのソフトウェアを以前インストールされていたバージョンにロールバックします。エラーはアプライアンスログに記録され、管理者に通知されます。`/log` ディレクトリで詳細なエラー情報を確認できます。

- **2.6.0.x** バージョンからバージョン **2.6.1** 以降にアプライアンスをアップグレードする前に、まず必須の **EEB (Engineering Emergency Binary)** がインストールされているかどうかを確認します。必須の **EEB** により、発生する可能性があるアップグレードまたはロールバックのエラーを防止できます。詳しくは、次のトピックを参照してください。
p.14 の「**注意事項と既知の問題**」を参照してください。

アップグレードの機能では、アップグレード処理が正常に完了したことを確認するために次の方法を実行します。

- 利用可能な更新が、現在インストールされているソフトウェアのバージョンより新しいかどうか判断されます。
- リリース更新をインストールするために利用できる領域がアプライアンスに十分あるかが判断されます。
- アプライアンスで動作している現在の処理を停止します。
- アクティブな **NetBackup** ジョブがあるかどうかを確認します。アクティブなジョブが検出されない場合にのみ、アップグレードプロセスが進行します。

必須の基準が満たされた場合のみ、アプライアンスのソフトウェアがアップグレードされ、バージョン番号が正しいリリースに更新されます。

p.12 の「[アプライアンスアップグレードのソフトウェア要件](#)」を参照してください。

p.11 の「[アプライアンスアップグレードのハードウェア要件](#)」を参照してください。

アプライアンスアップグレードのハードウェア要件

このトピックは、ソフトウェアアップグレードプロセスに影響する可能性のあるハードウェア要件について説明します。2.5.x から 2.6 製品ラインのアップグレードプロセスの場合、ハードウェアのアップグレード要件はディスク容量の増加が中心です。

ソフトウェアアップグレードを続行する前に、次のハードウェア要件を確認します。

- /inst ディレクトリにアップグレードパッケージをダウンロードして開梱するのに十分な容量があるかを確認します。たとえば、この容量がそれぞれ 3 GB だとすると、合計で 6 GB は必要です。
- ソフトウェアアップグレードには一定量の未割り当てディスク領域が必要です。バージョン 2.5.x から 2.6 製品ラインにアップグレードする場合、未割り当てディスク容量は次の項目に応じて異なります。
 - MSDP 変換の場合、MSDP パーティションに最低 13% の空き容量が必要です。
 - 35 GB とは別に、/usr/openv のサイズの 2 倍。
- バージョン 2.6.0.x から 2.6.1.x 製品ラインにアップグレードする場合、未割り当てディスク容量は次の項目に応じて異なります。
 - MSDP カタログパーティションの場合、MSDP パーティションに最低 13% の空き容量が必要です。
 - マスターアプライアンスでは、カタログボリューム (catvol) に 20% の空き容量が必要です。

p.8 の「[アプライアンスアップグレードの一般的なガイドラインおよびベストプラクティス](#)」を参照してください。

p.12 の「[アプライアンスアップグレードのソフトウェア要件](#)」を参照してください。

アプライアンスアップグレードのソフトウェア要件

このトピックでは、アップグレードプロセスのソフトウェア要件に関する情報を提供します。
 表 2-1 は、ソフトウェアをインストールする前にアプライアンスが実行する事前チェックの一覧です。事前チェックでは、セットアップが正常なソフトウェアアップグレードに必要な基準を満たしているかを確認します。

表 2-1 ソフトウェアインストールの事前チェック

事前チェック項目	チェック内容	アプライアンスサーバーの種類 - マスターまたはメディア	ソフトウェアのリリースバージョン
システムクロック	システムクロックがパッチのビルド日付より新しい日付であること。	マスターおよびメディア	2.5.x/2.6 製品ライン
パッチバージョン	既存のソフトウェアバージョンがソフトウェアアップグレードに必要な最小パッチバージョンを満たしていること。	マスターおよびメディア	2.5.x/2.6 製品ライン
マスターバージョン	マスターサーバーのバージョンが対象のバージョンよりも前のバージョンであること。	メディア	2.5.x/2.6 製品ライン
ユーザーアカウント	1007、1111、または 0 に一致する UID のユーザーアカウントを使用していないこと。	マスターおよびメディア	2.5.x
メディアサーバーのカタログパーティションの空き容量	メディアサーバーの NetBackup カatalogパーティションで 10% の空き容量が利用可能であること。	マスターおよびメディア	2.5.x
マスターサーバーのカタログパーティションの空き容量	NetBackup カatalogパーティション(/cat)で 20% の空き容量を利用可能であること。	マスター	2.5.x/2.6 製品ライン
カタログの移行	カタログを移行する必要があること。	マスター	2.5.x/2.6 製品ライン
MSDP アップグレードの空き容量	MSDP アップグレードの重複排除のパーティションで 13% の空き容量が利用可能であること。	マスターおよびメディア	2.5.x/2.6 製品ライン
MSDP のアップグレード時間	アップグレードを続行するため、MSDP のアップグレードに必要な推定所要時間を考慮していること。	マスターおよびメディア	2.5.x
ファイルシステムおよびディスクグループ	ストレージディスクがファイルシステムのアップグレードのためにマウント解除できること。	マスターおよびメディア	2.5.x
USB ストレージ	アップグレード中に USB ストレージデバイスがアプライアンスに取り付けられていること。 メモ: アップグレード中は、USB ストレージデバイスをアプライアンスに取り付けることはできません。	マスターおよびメディア	2.5.x
コールホームサービス	コールホームサービスが停止し、動作していないこと。	マスターおよびメディア	2.5.x

事前チェック項目	チェック内容	アプライアンスサーバーの種類 - マスターまたはメディア	ソフトウェアのリリースバージョン
RAID1 OS の状態	RAID1 OS ディスクの状態が低下していないこと。	マスターおよびメディア	2.5.x
アップグレードに必要な未割り当て領域	アップグレードに必要な未割り当て領域が必要な量を満たしていること。たとえば、OS のサイズに応じて約 40 GB から 60 GB になる場合があります。	マスターおよびメディア	2.5.x
パーティションのサイズ変更の要件	アップグレードを続行するだけの十分な未割り当て領域があること。十分な領域がない場合、アップグレードでは、別のストレージパーティションをサイズ変更してこの領域を借りるようにメッセージが表示されます。	マスターおよびメディア	2.5.x
ドメイン名	ドメイン名がアプライアンスに設定されていること。	マスターおよびメディア	2.5.x
アプライアンスのシリアル番号	シリアル番号がアプライアンスに設定されていること。	マスターおよびメディア	2.5.x
ネットワークインターフェースの結合	結合したすべてのネットワークインターフェースが有効であること。	マスターおよびメディア	2.5.x
NetBackup Appliance の Web コンソールの使用	アップグレードは NetBackup Appliance Web Console を使用して実行すること。コンソールを使用して実行すると、アプライアンスでは、コンソールから切り離すようにメッセージが表示されます。	マスターおよびメディア	2.5.x
NetBackup の状態	アップグレードプロセス開始前に NetBackup が終了していること。	マスターおよびメディア	2.5.x
チェックポイント領域の割り当て	チェックポイント作成に十分な領域が割り当てられていること。	マスターおよびメディア	2.6 製品ライン
領域のチェック	十分な空き容量があること。たとえば、/log の 10%、/inst のパッチサイズの 2 倍、最後にブートドライブの 10% などです。	マスターおよびメディア	2.6.0.1
出荷時チェックポイントのサイズ	出荷時チェックポイントのサイズが 2.6.0.1 の出荷時アプライアンスとして適切であること。問題がある場合は、アップグレードプロセスで問題が修正されます。	マスターおよびメディア	2.6.0.1 のみ
有効な NetBackup ジョブ	すべての NetBackup ジョブが、現在のアップグレードプロセス中のアプライアンスで動作していること。	メディア	2.6 製品ライン

p.8 の「[アプライアンスアップグレードの一般的なガイドラインおよびベストプラクティス](#)」を参照してください。

p.11 の「[アプライアンスアップグレードのハードウェア要件](#)」を参照してください。

注意事項と既知の問題

次のリストに、アップグレードとロールバックに関する注意事項と既知の問題を示します。

- 特定の EEB (Engineering Emergency Binary) を 2.6.0.x バージョンを実行する NetBackup Appliance にインストールすると、これらのアプライアンスを 2.6.1 以降にアップグレードするときに問題が起きることがあります。これらの EEB がアプライアンスにインストールされているか、または他の EEB がインストールされていない場合は、アップグレードとロールバックが失敗することがあります。影響を受けるアプライアンスソフトウェアのバージョンとそれに関連する EEB は次のとおりです。
 - バージョン 2.6.0.2 と EEB SYMC_NBAPP_ET3570768-2.6.0.2-1.x86_64.rpm がインストールされている場合。
これらのアプライアンスをバージョン 2.6.1 以降にアップグレードする前に、この EEB を削除して更新済みの EEB SYMC_NBAPP_ET3570768-2.6.0.2-2.x86_64.rpm をインストールする必要があります。
 - バージョン 2.6.0.3 と EEB SYMC_NBAPP_ET3570768-2.6.0.2-1.x86_64.rpm がインストールされている場合。
これらのアプライアンスをバージョン 2.6.1 以降にアップグレードする前に、この EEB を削除して更新済みの EEB SYMC_NBAPP_EEB_ET3592475-2.6.0.3-2.x86_64.rpm をインストールする必要があります。
 - バージョン 2.6.0.4。
これらのアプライアンスをバージョン 2.6.1 以降にアップグレードする前に、EBB SYMC_NBAPP_EBB_ET3647512-2.6.0.4-1.x86_64.rpm をインストールする必要があります。
この EEB の削除とインストールについて詳しくは、次の TechNote を参照してください。
https://support.symantec.com/en_US/article.TECH229240.html
- アプライアンスをソフトウェアバージョン 2.6.1.2 にアップグレードした後にアプライアンスのログインバナーが維持されません。この問題を回避するには、アップグレードの前に LoginBanner Show コマンドを実行してログインバナーのテキストをコピーします。アップグレード後に、LoginBanner Set コマンドを実行し、コピーされたテキストを使って同じログインバナーを設定します。
- ログインバナーの見出しまたはログインバナーのメッセージの 1 行に ERROR: というテキストのみが含まれる場合は、アプライアンスのセルフテストが失敗します。
- チェックポイントにロールバックする場合に NetBackup Appliance Web Console を使うと、操作によっては正しくロールバックしないことがあります。この問題を回避するには、NetBackup Appliance Shell Menu を使ってチェックポイントにロールバックします。

- アプライアンスサーバーの現在のバージョンが 2.5 より前の場合は、2.6 製品ラインに直接アップグレードすることはできません。最初にバージョン 2.5 にアップグレードしてから 2.6 製品ラインにアップグレードする必要があります。
- アプライアンスの現在のバージョンが 2.5 で、利用可能な最新のバージョンにアップグレードする場合は、NetBackup Appliance Shell Menu を使ってソフトウェア更新をインストールする必要があります。NetBackup Appliance Web Console を使ってソフトウェア更新をダウンロードできます。ただし、Web コンソールを使ってアップグレードをインストールすることはできません。ソフトウェアの更新のインストールには、シェルメニューを使ってください。
- NetBackup Appliance 2.5.x から利用可能な最新のバージョンにアップグレードするときに、メディアサーバー重複排除プール (MSDP) は変換の完了に 13 % の空き領域が必要です。空き領域が足りない場合は、アップグレードに失敗します。
- 2.6.x ソフトウェアバージョンの場合は、マスターサーバーアプライアンスからメディアサーバーアプライアンスへのリモートアップグレードはサポートされていません。メディアサーバーアプライアンスのアプライアンスソフトウェアをこのバージョンにアップグレードするには、各メディアサーバーアプライアンスに「admin」でログインし、アップグレード手順を実行します。
- 2.5.x からのアップグレードが正常に完了または正常にロールバックされた後、システムドライブの再構築が自動的に始まります。この処理は通常、3 ~ 4 時間程度ですが、システムの負荷によってはさらに時間がかかる場合があります。この処理中に、ドライブを取りはずさないでください。
再構築処理がシステム負荷に基づいた予測よりも著しく時間がかかる場合は、不良なドライブがある可能性があります。シマンテック社のテクニカルサポートに問い合わせてください。
- 未設定のアプライアンスを 2.5.x から利用可能な最新のバージョンにアップグレードする場合は、アップグレードではなくアプライアンスの再イメージ処理を実行します。未設定のアプライアンスの再イメージ処理時にホスト名や IP アドレスなどのすべての設定が失われ、ストレージはリセットされます。
- 未設定のアプライアンスを 2.5.x から利用可能な最新のバージョンにアップグレードすると、アプライアンスに工場出荷時インストールのチェックポイントが設定されます。設定済みアプライアンスを 2.5.x からアップグレードした場合は、アップグレード後のチェックポイントが設定されます。

ソフトウェア更新のインストール

この章では以下の項目について説明しています。

- [アプライアンスのソフトウェアリリース更新をダウンロードする方法](#)
- [NetBackup Appliance Web Consoleを使ったアプライアンスソフトウェア更新のインストール](#)
- [NetBackup Appliance Shell Menuを使用したアプライアンスソフトウェア更新のインストール](#)
- [アプライアンスアップグレード後の確認](#)

アプライアンスのソフトウェアリリース更新をダウンロードする方法

NetBackup Appliance ソフトウェアリリース更新はシマンテック社のサポート Web サイトから入手できます。アプライアンスのソフトウェアおよびクライアントパッケージは NetBackup Appliance Web Console または NetBackup Appliance Shell Menu からダウンロードできます。アップグレードを開始する前に、更新をアプライアンスに最初にダウンロードする必要があります。

以降では、アプライアンスのソフトウェアリリース更新をダウンロードする場合に使用する方法について説明します。

- p.17 の「[NetBackup Appliance Web Consoleを使用した NetBackup Appliance へのソフトウェア更新のダウンロード](#)」を参照してください。
- p.17 の「[NetBackup アプライアンスへのソフトウェア更新の直接ダウンロード](#)」を参照してください。

- p.19の「クライアント共有を使用した [NetBackup Appliance](#) へのソフトウェア更新のダウンロード」を参照してください。

NetBackup Appliance Web Consoleを使用した NetBackup Appliance へのソフトウェア更新のダウンロード

NetBackup Appliance Web Consoleを使用してアプライアンスにソフトウェアリリース更新をダウンロードするには、次の手順を使用します。

NetBackup Appliance Web Consoleを使用してアプライアンスにソフトウェアリリース更新をダウンロードするには

- 1 Web ブラウザを開いて、NetBackup Appliance Web Consoleでアプライアンスにログオンします。
- 2 [管理 (Manage)]、[ソフトウェアの更新 (Software updates)]の順に選択します。
- 3 [ソフトウェア更新 (Software Updates)]ページの[ダウンロードしたソフトウェア更新 (Downloaded Software Updates)]テーブルで、ソフトウェア更新がまだダウンロードされていないことを確認します。
 - インストールするソフトウェア更新がテーブルにある場合、次のソフトウェアインストールに進みます。
 - p.22の「[NetBackup Appliance Web Consoleを使ったアプライアンスソフトウェア更新のインストール](#)」を参照してください。
 - p.26の「[NetBackup Appliance Shell Menu を使用したアプライアンスソフトウェア更新のインストール](#)」を参照してください。
 - インストールするソフトウェア更新がテーブルにない場合、次の手順に進みます。
- 4 ページの[オンラインのソフトウェア更新 (Online Software Updates)]テーブルで、ソフトウェア更新を選択し、[ダウンロード (Download)]をクリックします。

[ダウンロードの進捗 (Download Progress)]列にダウンロードの状態が表示されます。ダウンロードが正常に完了すると、ソフトウェア更新が[ダウンロードしたソフトウェア更新 (Downloaded Software Updates)]テーブルの[利用可能なソフトウェアの更新名 (Available Software Update)]列に表示されます。

前の手順で記述されているようにソフトウェアインストールを続行します。

NetBackup アプライアンスへのソフトウェア更新の直接ダウンロード

アプライアンスにソフトウェア更新を直接ダウンロードする場合は、インターネットアクセスが必要です。

この手順を使用するには、シマンテック社のサポート [Web](#) サイトからファイルやパッケージをダウンロードするためのインターネットアクセスがアプライアンスに必要です。

ソフトウェアのリリース更新をアプライアンスに直接ダウンロードするには

- 1 **NetBackup Appliance Shell Menu** を使用し、管理者として **SSH セッション**を開き、アプライアンスにログオンします。
- 2 ソフトウェアの更新がシマンテック社のサポート **Web** サイトから利用可能かどうかを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
Main_Menu > Manage > Software > List AvailablePatch
```

- 3 利用可能なソフトウェアの更新またはクライアントパッケージをダウンロードするには、次のような適切なコマンドを入力します。

- アプライアンスサーバー更新の場合:

```
Main_Menu > Manage > Software > Download
```

```
SYMC_NBAPP_update-<version>-<release>.x86_64.rpm
```

<version> はソフトウェアのリリースのバージョンであり、<release> はソフトウェアバージョンのリリース番号です。

- **UNIX** クライアントパッケージの場合

```
Main_Menu > Manage > Software > Download
```

```
SYMC_NBAPP_addon_nbclient_<platformname>-<version>-<release>.x86_64.rpm
```

<platformname>はクライアントプラットフォームまたはオペレーティングシステム名、<version>はクライアントパッケージのバージョン、<release>はソフトウェアのバージョンのリリース番号です。

たとえば、

```
Main_Menu > Manage > Software > Download
```

```
SYMC_NBAPP_addon_nbclient_Solaris-7.6.0.2-SLES11.x86_64.rpm
```

- **Windows** クライアントパッケージの場合

```
Main_Menu > Manage > Software > Download
```

```
SYMC_NBAPP_addon_nbwin_<platformname>-<version>-<release>.x86_64.rpm
```

<platformname>はクライアントプラットフォームまたはオペレーティングシステム名、<version>はクライアントパッケージのバージョン、<release>はソフトウェアのバージョンのリリース番号です。

たとえば、

```
Main_Menu > Manage > Software > Download
```

```
SYMC_NBAPP_addon_nbwin-7.6.0.2-SLES11.x86_64.rpm
```

- 4 **rpm** が正常にダウンロードしたこと確認するためには、次のコマンドを入力します。

```
Main_Menu > Manage > List Downloaded
```

p.17 の「[NetBackup Appliance Web Console](#)を使用した [NetBackup Appliance](#) へのソフトウェア更新のダウンロード」を参照してください。

p.8 の「[アプライアンスアップグレードの一般的なガイドラインおよびベストプラクティス](#)」を参照してください。

クライアント共有を使用した NetBackup Appliance へのソフトウェア更新のダウンロード

CIFS や NFS のクライアント共有を使用してアプライアンスにソフトウェアリリース更新またはクライアントパッケージをダウンロードするには、この手順を使用します。

メモ: アプライアンスに直接ソフトウェア更新をダウンロードすることに失敗した場合は、この方法を使用して、アプライアンス上にアプライアンスのソフトウェアのリリース更新またはクライアントパッケージをダウンロードできます。

アプライアンスとインターネットに接続済みであるコンピュータからこの手順を実行します。シマンテック社のサポート Web サイトからファイルやパッケージをアプライアンスにダウンロードするにはインターネットアクセスが必要です。

CIFS または NFS のクライアント共有を使用してアプライアンスにソフトウェアリリース更新またはクライアントパッケージをダウンロードするには:

- 1 NetBackup Appliance Shell Menu を使用し、管理者として SSH セッションを開き、アプライアンスにログオンします。
- 2 NFS または CIFS 共有を開くには、次のコマンドを入力します。

```
Main_Menu > Manage > Software > Share Open
```

- 3 アプライアンス共有ディレクトリを次のようにマップまたはマウントします。

Windows システム 次のアプライアンス CIFS 共有をコンピュータにマッピングします。

メモ: Windows システムでは、ユーザー名 (admin) と、対応するパスワードを提供するように求められます。

UNIX システム 次のアプライアンス NFS 共有をマウントします。

- `mkdir -p /mount/<appliance-name>`
- `mount <appliance-name>:/inst/patch/incoming /mount/<appliance-name>`

- 4 リリース更新をダウンロードするには、リリース更新とクライアントパッケージがあるシマンテック社サポートサイトの以下の URL を入力します。

```
http://www.symantec.com/business/support/index?page=landing&key=58991
```

- 5 次のように、リリースの更新をダウンロードし、解凍または展開します。
 - リリースの更新の場合

リリースの更新の .rpm ファイル名が名前付きの複数のファイルに分割されている場合があります。次の例は、3つのファイルに分割されたソフトウェアの更新ファイルを示しています。

```
NB_Appliance_N_<version>-<release>.x86_64-tar-split.1of3
NB_Appliance_N_<version>-<release>.x86_64-tar-split.2of3
NB_Appliance_N_<version>-<release>.x86_64-tar-split.3of3
```

<version> はソフトウェアのリリースのバージョンであり、<release> はソフトウェアバージョンのリリース番号です。

リリースの更新のダウンロードを続けるには、手順 6 に進みます。

- クライアントパッケージの場合

クライアントパッケージは分割されず、次の命名規則が使用されます。

```
SYMC_NBAPP_addon_nbwin_<version>.x86_64.rpm または
SYMC_NBAPP_addon_nbclient_<platform and version>.x86_64.rpm
<プラットフォームとバージョン>は特定のプラットフォームオペレーティングシステム
およびクライアントパッケージの NetBackup のバージョンです。たとえば、
```

```
SYMC_NBAPP_addon_nbclient_HP-UX-IA64-7.6.0.2-SLES11.x86_64.rpm
```

クライアントパッケージのダウンロードを続けるには、手順 8 に進みます。

6 次のいずれかのコマンドを使ってリリースの更新 .rpm ファイルを結合 (抽出) します。

- **Windows** の場合は、次のように copy /b コマンドを使って、3 つに分割されたファイルを結合します。

```
copy /b NB_Appliance_N_<version>-<release>.x86_64-tar-split.1of3+
NB_Appliance_N_<version>-<release>.x86_64-tar-split.2of3+
NB_Appliance_N_<version>-<release>.x86_64-tar-split.3of3+
NB_Appliance_N_<version>-<release>.tar
```

メモ: このコマンドは 1 つの文字列です。コマンドを入力するときにスペースが含まれていないことを確かめてください。また、<version> はソフトウェアのリリースのバージョンであり、<release> はソフトウェアのバージョンのリリース番号です。

結果の .tar ファイル、NB_Appliance_N_<version>-<release>.tar ファイルを圧縮解除するには、**Windows WinRAR** ユーティリティを使います。

生成されるファイルは次のとおりです。

```
SYMC_NBAPP_update-<version>-<release>.x86_64.rpm
update.rpm.md5_checksum
```

- **UNIX** の場合は、次のように cat または同じようなコマンドを使って、3 つに分割されたファイルを結合します。

```
cat NB_Appliance_N_<version>-<release>.x86_64-tar-split.1of3<space>
    NB_Appliance_N_<version>-<release>.x86_64-tar-split.2of3<space>
    NB_Appliance_N_<version>-<release>.x86_64-tar-split.3of3 | tar xvf -
```

<version> はソフトウェアのリリースのバージョンであり、<release> はソフトウェアバージョンのリリース番号です。

メモ: このコマンドは 1 つの文字列です。この例では、各パッケージ間にスペース「<space>」が 1 つあります。

前のコマンドで生成されたファイルは次のとおりです。

```
SYMC_NBAPP_update-<version>-<release>.x86_64.rpm
update.rpm.md5_checksum
```

メモ: UNIX システムでパッケージを抽出するには、シマンテック社は tar の代わりに 1.16 以上の GNU の tar バージョンを使うことを推奨します。イメージの抽出について詳しくは、次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH154080>

7 SYMC_NBAPP_update-<version>-<release>.x86_64.rpm の md5 チェックサム値を次のように計算します。

- Windows システムの場合
 md5 チェックサムを計算するには、次のリンクをクリックして詳細を確認してください。
<http://support.microsoft.com/kb/889768>

- UNIX システムの場合は、次のコマンドを入力します。

```
md5sum SYMC_NBAPP_update-<version>-<release>.x86_64.rpm
```

チェックサム値が update.rpm.md5_checksum ファイルの内容と一致していることを確認します。

8 このリリースの更新またはクライアントパッケージの .rpm をマウント済みの共有にコピーします。

メモ: コピー処理の間はアプライアンスでコマンドを実行しないでください。コマンドを実行すると、コピー操作が失敗する可能性があります。

9 リリースの更新またはクライアントパッケージの .rpm をマウント済みの共有に正常にコピーした後、共有ディレクトリをマップ解除するか、マウント解除します。

- 10 アプライアンスで次のコマンドを入力して NFS 共有と CIFS 共有を閉じます。

Main_Menu > Manage > Software > Share Close

共有を閉じる前に次のいずれかのコマンドを実行すると、ダウンロードしたリリース更新またはクライアントパッケージは共有ディレクトリの場所から適切な場所に移動します。ここで、NFS 共有と CIFS 共有がクローズになっていることを確認するには、Share Close コマンドを実行する必要があります。

メモ: Symantec Critical System Protection (SCSP) のスキャンが完了しなければ、リリース更新やクライアントパッケージを検証または移動できません。

- List Version
- List Details All
- List Details Base
- Share Open
- Share Close

- 11 アプライアンスで利用可能なリリースの更新またはクライアントパッケージを一覧表示するには、次のコマンドを入力して、ダウンロードファイルの名前を記録します。

Main_Menu > Manage > Software > List Downloaded

このコマンドを実行すると、リリースの更新またはクライアントパッケージを検証し、共有ディレクトリから適切な場所に移します。この移動が行われたことは通知されません。

- p.8 の「[アプライアンスアップグレードの一般的なガイドラインおよびベストプラクティス](#)」を参照してください。
- p.17 の「[NetBackup Appliance Web Consoleを使用した NetBackup Appliance へのソフトウェア更新のダウンロード](#)」を参照してください。
- p.22 の「[NetBackup Appliance Web Consoleを使ったアプライアンスソフトウェア更新のインストール](#)」を参照してください。

NetBackup Appliance Web Consoleを使ったアプライアンスソフトウェア更新のインストール

アップグレードガイドラインを確認し、適切なソフトウェアリリース更新をダウンロードした後、次の手順を使って更新をインストールをします。

NetBackup Appliance Web Consoleを使ってダウンロードしたアプライアンスリリース更新をインストールするには

- 1 Web ブラウザを開いて、NetBackup Appliance Web Consoleを使ってアプライアンスにログオンします。
- 2 管理者として NetBackup 管理コンソールにログオンし、すべてのバックアッププロセスを次のように停止します。
 - マスターサーバーをアップグレードする前に、すべてのジョブおよび SLP(ストレージライフサイクルポリシー)を一時停止します。
 - メディアサーバーをアップグレードする前に、現在動作しているすべてのジョブを停止し、アップグレード中に開始するようにスケジュールされた可能性のあるジョブを一時停止します。アップグレード中にメディアサーバーでジョブが開始されないようにする必要があります。
- 3 [管理 (Manage)]、[ソフトウェアの更新 (Software updates)]の順に選択します。
- 4 [ソフトウェア更新 (Software Updates)]ページの[ダウンロードしたソフトウェア更新 (Downloaded Software Updates)]テーブルで適切なソフトウェア更新を探します。
 - インストールするソフトウェアの更新がテーブルにあれば、ステップ 5 に進みます。
 - インストールするソフトウェアの更新がテーブルになければ、次のトピックを参照してください。
 - p.17 の「[NetBackup Appliance Web Consoleを使用した NetBackup Appliance へのソフトウェア更新のダウンロード](#)」を参照してください。
 - p.17 の「[NetBackup アプライアンスへのソフトウェア更新の直接ダウンロード](#)」を参照してください。
 - p.19 の「[クライアント共有を使用した NetBackup Appliance へのソフトウェア更新のダウンロード](#)」を参照してください。
- 5 インストールするソフトウェアの更新に関連付けられているチェックボックスにチェックマークを付け、[インストール (Install)]をクリックします。
 [インストール (Install)]をクリックすると、次のイベントが起きます。
 - [ソフトウェアの更新 (Software Updates)]ページが更新され、アップグレードするサーバー (マスターまたはメディア) を示すテーブルが表示されます。表にはソフトウェアの更新の名前やバージョンも表示されます。

メモ: 複数のメディアサーバーをアップグレードする計画の場合は、各メディアサーバーについてこのアップグレードの手順を実行する必要があります。

- 対話型の、インストール前の検査ウィンドウが表示されます。

インストール前の質問に回答を入力する必要があります。その後、[完了 (Finish)] を選択してインストール前の検査ウィンドウを閉じてください。

6 [ダウンロードしたソフトウェア更新 (Downloaded Software Updates)] テーブルで [次へ (Next)] をクリックします。

7 [確認 (Confirm)] ポップアップウィンドウには、アップグレードするサーバー (マスターまたはメディア) が表示されます。

この情報が正しい場合は、[次へ (Next)] をクリックします。情報が正しくない場合は、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。

8 [次へ (Next)] をクリックすると、[確認が必要です (Confirmation Required)] のポップアップウィンドウが表示されます。管理者は、ソフトウェアのインストールとアップグレードが始まる前の最後の手順としてユーザー名とパスワードを入力する必要があります。クレデンシャルを入力した後、[確認 (Confirm)] をクリックします。インストールを停止または終了する場合は、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。

[ソフトウェア更新 (Software Updates)] ページは、[ダウンロードしたソフトウェア更新 (Downloaded Software Updates)] テーブルに表示されている情報を更新して表示します。このテーブルには、ソフトウェアインストールの進捗状況の割合と状態が表示されます。

メモ: アップグレードプロセス中は、Web サービスが利用できないことがあります。詳しくは、次のトピックを参照してください。p.9 の「[ソフトウェアのアップグレード処理を開始する前に](#)」を参照してください。

9 サーバーの状態が 100% に達した後、アップグレードが成功したかどうかテーブルのタイトル行の情報に表示されます。アップグレードが成功したかどうかに応じて、次の状態が起きます。

- [アプライアンスのバージョンは <対象のバージョン> で、アップグレード状態がありません。(The appliance version is <the target version> and not in upgrade state.)] 目標の(新しい)バージョンが表示されていれば、アップグレードは成功です。[完了 (Finish)] をクリックしてプロセスを完了します。
- [アプライアンスのバージョンは <元のバージョン> で、アップグレード状態がありません。(The appliance version is <the original version> and not in upgrade state.)] 元の(またはアップグレード前の)バージョンが表示されていれば、アップグレードが失敗して自動ロールバックが実行されました。ロールバックによって、サーバーは元のバージョンに戻ります。
- [PRE_UPGRADE チェックポイントの作成に失敗しました。この問題を最初に解決してください (Failed to create the PRE_UPGRADE checkpoint, please resolve this issue first)]

アップグレード操作が始まる前には、チェックポイント作成プロセスが自動的に行われます。このチェックポイントは、アップグレードが失敗した場合にサーバーのロールバックに使われます。このエラーメッセージが表示された場合は、チェックポイントの作成に失敗し、アップグレード操作が行われなかったことを示しています。アップグレードを再度試みる前に、問題の原因を特定して解決する必要があります。

- [**<nodename>**でセルフテストが失敗しました。この問題を最初に解決してください (**Self-Test failed on <nodename>, please resolve the issue first**)]セルフテスト操作は、アップグレード操作が始まる前に自動的に実行されます。セルフテスト操作が失敗すれば、アップグレードプロセスは続行しません。この問題が起きた場合は、続行する前に問題の解決を試みてください。

10 バックアップ環境に **SAN** クライアントコンピュータが含まれる場合にのみ、このステップを完了してください。

ファイバーチャネル (FC) ポートは、**SAN** クライアントコンピュータがファイバートランスポート (FT) デバイスに再接続することを許可するために再スキャンする必要があります。再スキャンはアプライアンスの **NetBackup CLI** ビューから実行する必要があります。

FC ポートを再スキャンする方法:

- 次のコマンドを入力して **NetBackup** のユーザーアカウントの一覧を表示します。
`Manage > NetBackupCLI > List`
- 一覧表示された **NetBackup** ユーザーのいずれかとしてこのアプライアンスにログインします。
- 次のコマンドを実行して **FC** ポートを再スキャンします。
`nbftconfig -rescanallclients`
- まだ動作しない **SAN** クライアントがある場合は、それらのクライアントのそれぞれについて、次のコマンドを示されている順序で実行します。

UNIX クライアントの場合:

```
/usr/opensv/netbackup/bin/bp.kill_all
/usr/opensv/netbackup/bin/bp.start_all
```

Windows クライアントの場合:

```
<install_path>%NetBackup%bin%bpdown
<install_path>%NetBackup%bin%bpup
```

- まだ動作しない **SAN** クライアントがある場合は、**OS** レベルで **SCSI** デバイスの更新を手動で開始する必要があります。更新操作を実行する方法は、クライアントが実行しているオペレーティングシステムによって異なります。更新が完了したら、再度 `nbftconfig -rescanallclients` コマンドの実行を試みます。
- まだ動作しない **SAN** クライアントがある場合は、それらのクライアントを再起動します。

メモ: まだ動作しない SLES 10 または SLES 11 SAN クライアントがある場合は、それらのクライアントの QLogic ドライバをアップグレードすることをお勧めします。影響を受ける SLES 10 クライアントはバージョン 8.04.00.06.10.3-K に、影響を受ける SLES 11 クライアントはバージョン 8.04.00.06.11.1 にアップグレードします。

NetBackup Appliance Web Console を利用したソフトウェアリリース更新の操作について詳しくは、『Symantec NetBackup Appliance 管理者ガイド』を参照してください。

p.16 の「[アプライアンスのソフトウェアリリース更新をダウンロードする方法](#)」を参照してください。

p.26 の「[NetBackup Appliance Shell Menu を使用したアプライアンスソフトウェア更新のインストール](#)」を参照してください。

NetBackup Appliance Shell Menu を使用したアプライアンスソフトウェア更新のインストール

アプライアンスにソフトウェア更新をダウンロードした後、この手順に従って NetBackup Appliance Shell Menu からインストールできます。NetBackup Appliance Shell Menu からアップグレードを実行する場合は、アップグレード操作中も引き続き NetBackup Appliance Web Console を使うことができます。

表 3-1 に、利用可能なソフトウェアリリース更新の詳細を表示、確認、調査できる Software > List コマンドのコマンドオプションを示します。

表 3-1 Manage > Software > List コマンドオプション

コマンド名	説明
Main_Menu > Manage > Software > List AddOns	アプライアンスにインストールされているソフトウェアアドオンの一覧を表示します。
Main_Menu > Manage > Software > List AvailablePatch	利用可能なソフトウェア更新をシマンテック社のサイトで調べます。
Main_Menu > Manage > Software > List Details All	出荷時インストールでアプライアンスに適用されているすべてのソフトウェアリリース更新の一覧を表示します。
Main_Menu > Manage > Software > List Details Base	出荷時インストールでアプライアンスに適用されているすべてのソフトウェアリリース更新の一覧を表示します。

コマンド名	説明
Main_Menu > Manage > Software > List Downloaded	ダウンロード済みのソフトウェアの更新の詳しい情報を一覧表示します。
Main_Menu > Manage > Software > List EEBs	プリインストール済みのすべての EEB (Emergency Engineering Binary) の詳しいリストを表示します。
Main_Menu > Manage > Software > List Version	現在、アプライアンスにインストールされているソフトウェアバージョンを表示します。

NetBackup Appliance Shell Menu を使用してダウンロードしたアプライアンスリリース更新をインストールするには

- 1 NetBackup Appliance Shell Menu を使用して SSH セッションを開いてアプライアンスにログオンします。

- 2 管理者として NetBackup 管理コンソールにログオンし、すべてのバックアッププロセスを次のように停止します。

- マスターサーバーをアップグレードする前に、すべてのジョブおよび SLP (ストレージライフサイクルポリシー) を一時停止します。
- メディアサーバーをアップグレードする前に、現在動作しているすべてのジョブを停止し、アップグレード中に開始するようにスケジュールされた可能性のあるジョブを一時停止します。アップグレード中にメディアサーバーでジョブが開始されないようにする必要があります。

- 3 ソフトウェアリリース更新をインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
Main_Menu > Manage > Software > Install patch_name
```

patch_name はインストールするリリースの更新の名前です。このパッチ名がインストールするパッチであることを確認します。

- 4 画面に表示されるアップグレードの進捗状況を参照して、予定完了時間を確認します。アップグレードの現在の状態を表示するには、次のコマンドを入力します。

```
Main_Menu > Manage > Software > UpgradeStatus
```

メモ: このコマンドを使うことができるのは、バージョン **2.6.0.1** 以降からのアップグレードのみです。**2.5.x** からのアップグレードには使うことができません。

- 5 アップグレード中はアプライアンスが強制的に複数回再起動されることがあります。アップグレードが完了して、ディスクプールがオンラインに戻ったら、アプライアンスは自己診断テストを実行します。テスト結果については、次のファイルを参照してください。

```
/log/selftest_report_<appliance_serial>_<timedate>.txt
```

SMTP が構成されている場合は、セルフテストの結果が含まれた電子メール通知が送信されます。

- 6 バックアップ環境に SAN クライアントコンピュータが含まれる場合にのみ、このステップを完了してください。

ファイバーチャネル (FC) ポートは、SAN クライアントコンピュータがファイバートランスポート (FT) デバイスに再接続することを許可するために再スキャンする必要があります。再スキャンはアプライアンスの **NetBackup CLI** ビューから実行する必要があります。

FC ポートを再スキャンする方法:

- 次のコマンドを入力して **NetBackup** のユーザーアカウントの一覧を表示します。
 Manage > NetBackupCLI > List
- 一覧表示された **NetBackup** ユーザーのいずれかとしてこのアプライアンスにログインします。
- 次のコマンドを実行して **FC** ポートを再スキャンします。
 nbftconfig -rescanallclients
- まだ動作しない **SAN** クライアントがある場合、それらのクライアントのそれぞれについて、次のコマンドを示されている順序で実行します。
 UNIX クライアントの場合:

```
/usr/opensv/netbackup/bin/bp.kill_all
```

```
/usr/opensv/netbackup/bin/bp.start_all
```

 Windows クライアントの場合:

```
<install_path>%NetBackup%bin%bpdown
```

```
<install_path>%NetBackup%bin%bpup
```
- まだ動作しない **SAN** クライアントがある場合、**OS** レベルで **SCSI** デバイスの更新を手動で開始する必要があります。更新方法はクライアントのオペレーティングシステムによって決まります。更新が完了したら、再度 nbftconfig -rescanallclients コマンドの実行を試みます。
- まだ動作しない **SAN** クライアントがある場合、それらのクライアントを再起動します。

メモ: まだ動作しない SLES 10 または SLES 11 SAN クライアントがある場合、それらのクライアントの QLogic ドライバをアップグレードすることをお勧めします。影響を受ける SLES 10 クライアントはバージョン 8.04.00.06.10.3-K に、影響を受ける SLES 11 クライアントはバージョン 8.04.00.06.11.1 にアップグレードします。

p.8 の「[アプライアンスアップグレードの一般的なガイドラインおよびベストプラクティス](#)」を参照してください。

p.22 の「[NetBackup Appliance Web Consoleを使ったアプライアンスソフトウェア更新のインストール](#)」を参照してください。

p.16 の「[アプライアンスのソフトウェアリリース更新をダウンロードする方法](#)」を参照してください。

アプライアンスアップグレード後の確認

アップグレード完了後、次の項目を調べて確認します。

- MSDP 関連の更新を調べて確認します。[お客様はここで何を探すべきですか?]
- ソフトウェアアップグレードの状態または進捗を確認するには、`Manage > Software > UpgradeStatus` コマンドを実行します。[これはアップグレード手順に関して冗長なように見えます。GUI のアップグレード方法では、アップグレードの完了が明確に表示されます。さらに、このコマンドは CLISH アップグレード方法の 2 番目の手順です。これは本当に必要ですか?]
- アップグレードプロセスが正常に完了したことを確認し、ソフトウェア更新のバージョンを確認するには、`Manage > Software > Version` コマンドを実行します。[これは CLISH 方法にのみ適用されます。GUI のアップグレード方法では、アップグレード後の現在のバージョンが表示されます。CLISH アップグレード手順の最後の手順でこれを追加する必要がありますか?]
- ハードウェアおよびソフトウェアのコンポーネントの状態を調べるには、`Support > Test Hardware` および `Support > Test Software` コマンドを実行します。

p.8 の「[アプライアンスアップグレードの一般的なガイドラインおよびベストプラクティス](#)」を参照してください。

p.16 の「[アプライアンスのソフトウェアリリース更新をダウンロードする方法](#)」を参照してください。

トラブルシューティング

この章では以下の項目について説明しています。

- [通常のアップグレードに関連する問題のトラブルシューティング](#)
- [NetBackup Appliance のログファイルについて](#)
- [NetBackup Java のアプリケーションに関する情報の参照場所](#)

通常のアップグレードに関連する問題のトラブルシューティング

アプライアンスのアップグレードが失敗した場合、または他のアップグレードの問題が発生した場合、[表 4-1](#)内の次の情報を使用して問題を解決します。

メモ: また、最新の利用可能なバージョンにアップグレードしない場合のために、次の情報には以前のアプライアンスリリースからの問題も含まれます。

表 4-1 通常のアップグレードに関連する問題のトラブルシューティング

問題の説明	説明	推奨処置
<p>2.5.3 から 2.6.0.2 へのアップグレードが事前チェック中に失敗する。</p>	<p>アップグレードするアプライアンスに KVM を使用してアクセスする場合にこの問題が発生します。このシナリオでは、アップグレードスクリプトが KVM デバイスを USB ストレージデバイスとして扱うため、事前チェックが失敗します。</p>	<p>この問題はバージョン 2.6.1 で解決されています。</p> <p>2.6.0.2 リリースの問題を回避するには、アップグレード rpm パッケージマネージャ (rpm) を手動でインストールし、patchinst スクリプトを修正してチェックを削除します。これで NetBackup Appliance Shell Menu を使用してアプライアンスをアップグレードできるようになります。</p> <p>問題が解決しない場合は、シマンテック社のテクニカルサポートに問い合わせてください。</p>
<p>2.5.4 から 2.6.0.2 へのアップグレードが失敗した。</p>	<p>ファイル /root/autoinst.xml が作成されない場合、またはアップグレード中に使用できない場合、この問題が発生することがあります。</p>	<p>この問題を解決するには、/control.xml ファイルを修正する必要がある場合もあります。</p> <p>問題が解決しない場合は、シマンテック社のテクニカルサポートに問い合わせてください。</p>
<p>以前のバージョンから 2.6.0.1 にアプライアンスをアップグレードすると、アップグレードプロセスが NetBackup のインストール時に失敗する。</p>	<p>メディアサーバーの /cat ボリュームに十分な空き容量がない場合、この問題が発生することがあります。</p>	<p>この問題はバージョン 2.6.1 で解決されています。</p> <p>以前のバージョンにアップグレードする場合に発生するこの問題を回避するには、/cat のサイズを 2 GB 増やしてください。</p> <p>問題が解決しない場合は、シマンテック社のテクニカルサポートに問い合わせてください。</p>
<p>バージョン 2.6.0.3 へのアップグレードが失敗し、以前のバージョンが表示される。それにもかかわらず、アプライアンスにはアップグレード完了メッセージが表示される。</p>	<p>アプライアンスで通知に関して SMTP サーバーを構成しなかった場合、この問題が発生することがあります。これにより、アップグレードプロセスの完了後にロールバックがトリガされる場合があります。</p>	<p>この問題を回避するには、アプライアンスから通知を受信するように SMTP サーバーが構成されていることを確認します。また、シマンテック社はアプライアンスを最新のソフトウェアバージョンにアップグレードすることを推奨します。</p> <p>詳しくは、SymConnect を参照してください。</p>

問題の説明	説明	推奨処置
<p>バージョン 2.6.02 へのアップグレードが失敗し、ログファイルの次のメッセージが記録される。</p> <pre>not ok remote_emm: Remote EMM configuration is detected</pre>	<p>OS と NetBackup の構成の間で入力の大文字と小文字が区別される場合、この問題が発生することがあります。</p>	<p>シマンテック社はアプライアンスを最新のソフトウェアバージョンにアップグレードすることを推奨します。</p> <p>詳しくは、SymConnect を参照してください。</p>
<p>ソフトウェアバージョン 2.6.0.1 から 2.6.0.3 へのアップグレード中にアプライアンスのセルフテストが失敗する。</p>	<p>次のコマンド <code>nbpemreq -suspend_scheduling</code> を使用してアップグレードプロセスを開始し、すべてのジョブおよびストレージライフサイクルポリシー (SLP) を一時停止した場合、この問題が発生することがあります。</p>	<p>この問題を解決するには、SLP を再度有効化するか、SLP が一時停止されている場合はアプライアンスを再度有効化してみます。</p> <p>詳しくは、SymConnect を参照してください。</p>
<p>バージョン 2.6.0.1 へのアップグレードが失敗し、次のエラーと一緒にロールバックする。</p> <pre>[Error] Failed to retrieve NetBackup storage units for partition_name storage partition.</pre>	<p>アプライアンスのホスト名入力時、アプライアンスの初期構成の間に誤って Caps Lock をオンにした場合、このエラーが発生することがあります。アプライアンスが NetBackup を構成する場合は小文字を使用します。そのため、<code>/etc/HOSTNAME</code> または <code>hostname</code> コマンド出力と <code>bp.conf</code> ファイルの内容との間に不一致が生じます。</p>	<p>このエラーを解決するには、<code>Network > Hostname Show</code> コマンドを使用してアプライアンスのホスト名を特定します。この hostname を新しいサーバー hostname としてアプライアンスの <code>/usr/openv/netbackup/bp.conf</code> に追加します。ファイルを保存して、ソフトウェア更新のインストールを再度試みます。</p> <p>また、シマンテック社はアプライアンスを最新のソフトウェアバージョンにアップグレードすることを推奨します。</p> <p>詳しくは、TECH214325 を参照してください。</p>
<p>バージョン 2.6.0.1 へのアップグレードが失敗し、次のエラーと一緒にロールバックする。</p> <pre>[Error] Unable to expand the storage partition. The specified size is above the maximum supported size 4 TB of Catalog storage partition.</pre>	<p>以前のアプライアンスバージョンでは、NetBackup のカタログパーティションが 4 TB を超えるものもありました。ただし、最新バージョンのアプライアンスは、そのような条件を事前にチェックし、カタログ領域を自動的に縮小します。</p>	<p>この問題を解決するには、次のアップグレードの前に <code>/cat</code> ボリュームを 4 TB 未満に縮小してください。たとえば、1 TB または 2 TB などです。パーティションをサイズ変更するには、NetBackup Appliance Web Console の [管理 (Manage)] > [ストレージ (Storage)] > [リサイズ (Resize)] ページを使用するか、NetBackup Appliance Shell Menu の <code>Main_Menu > Storage > Resize</code> から <code>Cat 1-TB</code> コマンドを実行します。</p> <p>詳しくは、TECH214933 を参照してください。</p>

問題の説明	説明	推奨処置
<p>バージョン 2.6.0.2 へのアップグレードが失敗し、次のセルフテスト結果が記録される。</p> <pre>-[Error] An upgrade process is already running on this appliance.</pre> <p>[Info] The software upgrade has been aborted!</p>	<p>アップグレード前のチェックポイントの作成前にアップグレードプロセスが中断された場合、この問題が発生することがあります。</p>	<p>この問題を解決するには、<code>/inst/patch/appliance/upgrading/state.info</code> および <code>/inst/patch/appliance/upgrading/patchinst.lock</code> を削除し、アップグレードプロセスを再起動してください。</p> <p>また、シマンテック社はアプライアンスを最新のソフトウェアバージョンにアップグレードすることを推奨します。</p> <p>詳しくは、TECH218031 を参照してください。</p>
<p>USB 大容量ストレージデバイスをアプライアンスに取り付けると、アップグレードプロセスが失敗してインストールが続けられない。</p>	<p>アップグレード実行中は、USB デバイスをアプライアンスに取り付けることはできません。</p>	<p>アプライアンスに取り付けられた USB デバイスまたは KVM をすべて取りはずす必要があります。</p> <p>詳しくは、TECH217135 を参照してください。</p>
<p><code>REQUIRED_INTERFACE</code> が IP アドレスに設定されている場合、バージョン 2.6.0.1 へのアップグレードが失敗する。</p>	<p>インストールスクリプトが <code>hostname</code> エントリを <code>REQUIRED_INTERFACE</code> 定義で上書きした場合、この問題が発生することがあります。<code>PREFERRED_NETWORK</code> オプションがエントリを置き換えるため、この <code>hostname</code> エントリを使用しないでください。</p>	<p>問題を解決するには、<code>bp.conf</code> ファイルからエントリを削除し、アップグレードプロセスを再起動します。</p> <p>詳しくは、TECH215030 を参照してください。</p>
<p>アプライアンスをバージョン 2.6.0.x にアップグレードすると、DataCollect ファイルが大きくなりすぎる。</p>	<p>ファイルサイズが大きくなる原因は、パッチのインストールログを含めるように収集された余分なログです。</p>	<p>NetBackup Appliance Web Console からアプライアンス診断センターを使用してログを収集します。</p> <p>アプライアンス診断センターの使用手順については、TECH217665 を参照してください。</p>

問題の説明	説明	推奨処置
実行中のジョブがないのに、セルフテストでアクティブなジョブが見つかり、アップグレードが失敗する。	セルフテスト後にジョブを実行していないのにアクティブなジョブが見つかるため、アップグレードが失敗する場合、削除する大量の期限切れイメージがある可能性があります。	<p>アプライアンスまたはマスターサーバーに NetBackup CLI ユーザーとしてログインし、<code>nbdelete -list</code> コマンドを実行します。このコマンドで大量のイメージが返される場合は、<code>nbdelete</code> コマンドを実行してイメージを削除します。次にもう一度アップグレードを試みます。</p> <p>メモ: ストレージサーバーにアクセスできない場合、<code>nbdelete</code> コマンドでイメージを削除できないことがあります。イメージが削除されない場合、ストレージサーバーへの接続を確認してから再試行してください。</p>
<p>セルフテストは、BIOS ファームウェアバージョンについて次の警告を報告します。</p> <p>Checking whether BIOS firmware is compatible with the software ... [WARNING]</p>	アプライアンスのソフトウェアバージョン 2.6.1 の BIOS ファームウェアバージョンをアップグレードした場合、セルフテストで BIOS ファームウェアバージョンに関する警告がまだ報告されることがあります。これはソフトウェアインストーラが正常だったとしても発生します。	この問題を解決し、BIOS ファームウェアのアップグレードが成功したかを確認するには、 NetBackup Appliance Shell Menu にログインして、 <code>Main_Menu > Monitor > Hardware ShowHealth Appliance CPU</code> コマンドを実行します。コマンド出力では、更新した BIOS ファームウェアのバージョンを表示する必要があります。

アプライアンス問題のトラブルシューティングについては、『Symantec NetBackup Appliance のトラブルシューティングガイド』を参照してください。

p.43 の「[アプライアンスパッチのログファイルについて](#)」を参照してください。

NetBackup Appliance のログファイルについて

ログファイルは、アプライアンスで発生する可能性がある問題の特定と解決に役立ちます。

NetBackup Appliance では、ハードウェア、ソフトウェア、システム、パフォーマンス関連データを取得できます。ログファイルは、アプライアンス操作などの情報、未構成ボリュームまたはアレイなどの問題、温度またはバッテリーに関する問題、およびその他の詳細を取得します。

表 4-2 に、アプライアンスのログファイルにアクセスするために使用できる方法を説明します。

表 4-2 ログファイルの表示

取得元	方法	ログ詳細
NetBackup Appliance Web Console	NetBackup Appliance Web Consoleの「ログファイルを収集 (Collect Log files)」ウィザードを使用して、アプライアンスからログファイルを収集できます。 p.36 の「 「ログファイルを収集 (Collect Log files)」ウィザードについて 」を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> ■ NetBackup のコピーログ ツールが作成するログ (nbcplogs) ■ 高可用性、ハードウェア、イベントログが記録されるアプライアンスのログ ■ オペレーティングシステムのログ ■ メディアサーバー重複排除プール (MSDP) 関連のすべてのログ ■ NetBackup アプライアンス Web コンソール関連のすべてのログ ■ NetBackup およびオペレーティングシステムについての診断情報 ■ ハードウェアおよびストレージデバイスのログ
NetBackup Appliance Web Console	NetBackup Appliance Web Consoleの「モニター (Monitor)」> 「SCSP 監査ビュー (SCSP Audit View)」画面を使用して、アプライアンスの監査ログを取得できます。	アプライアンスの監査ログ
NetBackup Appliance Shell Menu	Main > Support > Logs > Browse コマンドを使用して、LOGROOT/>プロンプトを開きます。ls や cd のようなコマンドを使用して、アプライアンスのログディレクトリの操作や各種ログの取得を行えます。 p.37 の「 Support コマンドの使用によるログファイルの表示 」を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> ■ Appliance の構成ログ ■ NetBackup ログ、Volume Manager ログ、openv ディレクトリに含まれている NetBackup ログ ■ Appliance のオペレーティングシステム (OS) インストールログ ■ NetBackup 管理 Web ユーザーインターフェース ログと NetBackup Web サーバーログ ■ NetBackup 52xx アプライアンスのデバイスログ

取得元	方法	ログ詳細
NetBackup Appliance Shell Menu	Main > Support > Logs > VxLogView Module ModuleName コマンドを実行して、Appliance VxUL (統合) ログにアクセスすることができます。Main > Support > Share Open コマンドを実行し、デスクトップを使用して、VxUL ログのマップ、共有、コピーを行うこともできます。	Appliance 統合ログ: <ul style="list-style-type: none"> ■ All ■ CallHome ■ Checkpoint ■ Commands ■ Common ■ Config ■ CrossHost ■ Database ■ Hardware ■ HWMonitor ■ Network ■ RAID ■ Seeding ■ SelfTest ■ ストレージ ■ SWUpdate ■ Trace
NetBackup Appliance Shell Menu	Main > Support > DataCollect コマンドを使用して、ストレージデバイスログを収集できます。 p.40 の「DataCollect コマンドを使ったデバイスログの収集」を参照してください。	Appliance ストレージデバイスログ
NetBackup Java アプリケーション	NetBackup Java アプリケーションに関する問題が発生した場合、このセクションのスクリプトを使って、サポートに連絡するために必要な情報を集めることができます。p.43 の「NetBackup Java のアプリケーションに関する情報の参照場所」を参照してください。	NetBackup Java アプリケーションに関するログ

[ログファイルを収集 (Collect Log files)]ウィザードについて

NetBackup Appliance Web Consoleの[ログファイルを収集 (Collect Log files)]ウィザードを使用して、アプライアンスからログファイルを収集できます。ウィザードを使って、

NetBackup、アプライアンス、オペレーティングシステム、NetBackup サポートユーティリティ (NBSU)、DataCollect などさまざまな形式のログファイルを収集できます。

NetBackup Appliance からログファイルを収集できます。

ログファイルを生成すると、受信者に電子メールで送信したり、コンピュータにダウンロードしたり、シマンテック社のサポートにアップロードできます。

アプライアンス診断センターについて詳しくは、以下を参照してください。

p.34 の「[NetBackup Appliance のログファイルについて](#)」を参照してください。

Support コマンドの使用によるログファイルの表示

次のセクションを使ってログファイルの情報を表示できます。

Support > Logs > Browse コマンドを使用してログを表示する方法

- 1 NetBackup Appliance のシェルメニューで Main_Menu > Support > Logs によって参照モードに入り、次に Browse コマンドを実行します。LOGROOT/> プロンプトが表示されます。
- 2 アプライアンスの利用可能なログディレクトリを表示するには、LOGROOT/> プロンプトで ls と入力します。
- 3 いずれかのログディレクトリで利用可能なログファイルを参照するには、cd コマンドを使って、選択するログディレクトリにディレクトリを変更します。プロンプトが現在のディレクトリを示すように変わります。たとえば、ディレクトリを GUI ディレクトリに変更した場合、プロンプトは LOGROOT/GUI/> と表示されます。そのプロンプトから ls コマンドを使うと、GUI ログディレクトリの利用可能なログファイルを表示できます。
- 4 ファイルを表示するには、less <FILE> または tail <FILE> コマンドを使います。ファイルは <FILE> で、ディレクトリは <DIR> でマーク付けされます。

p.38 の「[Browse コマンドを使用した NetBackup Appliance ログファイルの参照場所](#)」を参照してください。

Support > Logs コマンドを使用して NetBackup Appliance 統合 (VxUL) ログを表示する方法

- 1 Support > Logs > VXLogView コマンドを使用して、NetBackup Appliance 統合 (VxUL) ログを表示できます。コマンドをシェルメニューに入力し、次のオプションのうちいずれかを使用します。
 - Logs VXLogView JobID *job_id*
特定のジョブ ID に関するデバッグ情報の表示に使用します。
 - Logs VXLogView Minutes *minutes_ago*
特定の時間枠に関するデバッグ情報の表示に使用します。
 - Logs VXLogView Module *module_name*

特定のモジュールに関するデバッグ情報の表示に使用します。利用可能なモジュール名は次のとおりです。All、CallHome、Checkpoint、Common、Config、Database、Hardware、HWMonitor、Network、RAID、Seeding、SelfTest、Storage、SWUpdate、Commands、CrossHost、Trace。

特定のモジュールに関するデバッグ情報の表示に使用します。利用可能なモジュール名は次のとおりです。All、CallHome、Checkpoint、Common、Config、Database、FTMS、Hardware、HWMonitor、Network、RAID、Seeding、SelfTest、Storage、SWUpdate、Commands、CrossHost、Trace。

- 2 必要に応じて、Main > Support > Share Open コマンドを使って統合ログをコピーできます。デスクトップを使ってログのマップ、共有、コピーを行います。

メモ: NNetBackup Appliance 統合ログは、nbpern や nbjm などの NetBackup 統合ログとは異なります。NetBackup Appliance には独自のログファイルのセットがあります。NetBackup 統合ログを収集するには、ログファイルを収集ウィザードを使用して [NetBackup] を選択します。

また、Main_Menu > Support > Logs コマンドを使って次のことを実行することもできます。

- シマンテック社のテクニカルサポートにログファイルをアップロードする
- ログレベルを設定する
- CIFS 共有と NFS 共有をエクスポートまたは削除する

メモ: NetBackup Appliance VxUL ログは、cron ジョブまたはスケジュール済みタスクによってアーカイブされなくなりました。さらに、ログの再利用が有効になり、デフォルトのログファイル数が 50 に設定されました。

上記のコマンドを使う方法について詳しくは『NetBackup Appliance コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

p.34 の「[NetBackup Appliance のログファイルについて](#)」を参照してください。

Browse コマンドを使用した NetBackup Appliance ログファイルの参照場所

表 4-3 は、Support > Logs > Browse コマンドを実行することで、アクセス可能なログとログディレクトリの場所を提供します。

表 4-3 NetBackup Appliance ログファイルの場所

アプライアンスログ	ログファイルの場所
構成ログ	<DIR> APPLIANCE config_nb_factory.log
セルフテストレポート	<DIR> APPLIANCE selftest_report
ホスト変更ログ	<DIR> APPLIANCE hostchange.log
NetBackup ログ、Volume Manager ログ、 openv ディレクトリに含まれている NetBackup ログ	<DIR> NBU <ul style="list-style-type: none"> ■ <DIR> netbackup ■ <DIR> openv ■ <DIR> volmgr
オペレーティングシステム (OS) インストールロ グ	<DIR> OS boot.log boot.msg boot.omsg messages
NetBackup 重複排除 (PDDE) 構成スクリプトの ログ	<DIR> PD pdde-config.log
NetBackup 管理 Web ユーザーインターフェー スログと NetBackup Web サーバーログ	<DIR> WEBGUI <ul style="list-style-type: none"> ■ <DIR> gui ■ <DIR> webserver
デバイスログ	/tmp/DataCollect.zip Main > Support > Logs > Share Open コマンドを使うと、DataCollect.zip をローカ ルフォルダにコピーできます。

p.34 の「[NetBackup Appliance のログファイルについて](#)」を参照してください。

DataCollect コマンドを使ったデバイスログの収集

Main > Support シェルメニューから DataCollect コマンドを使ってデバイスログを収集できます。これらのデバイスログをシマンテック社のサポートチームと共有することで、デバイス関連の問題を解決できます。

DataCollect コマンドは、オペレーティングシステム、IPMI、ストレージログの他に次のログも収集します。

- Patch ログ
- Veritas File System のログ
- Test hardware のログ
- CPU 情報
- ディスクパフォーマンスのログ
- メモリ情報
- ハードウェア情報

DataCollect コマンドを使ってデバイスログを収集する方法

- 1 NetBackup Appliance の管理シェルメニューにログオンします。
- 2 サポートメニューを開きます。サポートメニューを開くには、次のコマンドを使います。

```
Main > Support
```

アプライアンスは、サポートメニューのすべてのサブタスクを表示します。

- 3 ストレージデバイスのログを収集するには、DataCollect コマンドを入力します。
 アプライアンスが次の手順を開始します。

```

appliance123.Support > DataCollect
Gathering release information
Gathering dmidecode logs
Gathering ipmitool sel list logs
Gathering fwtermlog logs
Gathering AdpEventLog logs
Gathering smartctl logs
Gathering disk performance logs
Gathering ipmiutil command output
Gathering cpu information
Gathering memory information
Gathering sdr logs
Gathering adpallinfo logs
Gathering encinfo logs
Gathering cfgdsply logs
Gathering ldpdinfo logs
Gathering pdlist logs
Gathering fru logs
Gathering adpbucmd logs
Gathering os logs
Gathering adpalilog logs
Gathering dfinfo logs
Gathering vxprint logs
Gathering Test Hardware logs
Gathering patch logs
    
```

```

All logs have been collected in /tmp/DataCollect.zip
Log file can be collected from the appliance shared folder
- ¥¥appliance123¥logs¥APPLIANCE
Share can be opened using Main->Support->Logs->Share Open
    
```

=====
 =====End of DataCollect=====

```

All logs have been collected in /tmp/DataCollect.zip
    
```

アプライアンスは /tmp/DataCollect.zip ファイルにデバイスログを生成します。

- 4 Main > Support > Logs > Share Open コマンドを使って、DataCollect.zip をローカルフォルダにコピーします。
- 5 問題を解決するために、シマンテック社のサポートチームに DataCollect.zip ファイルを送信できます。

p.34 の「[NetBackup Appliance のログファイルについて](#)」を参照してください。

VxMS ログの有効化および無効化

次の手順では、NetBackup Appliance のシェルメニューから VxMS ログを有効化または無効化する方法を説明します。

メモ: VxMS ログのサイズを考慮して、VxMS ログは問題をトラブルシューティングする必要がある場合にのみ有効化することをお勧めします。問題が解決されたら再度 VxMS ログを無効にします。

VxMS ログの現在の設定を確認するには、Support > Logs > GetLevel コマンドを使用します。

VxMS ログを有効化する方法

- 1 NetBackup Appliance のシェルメニューの Support > Logs ビューから、次のコマンドを実行します。

```
SetLevel VxMS 1
```

- 2 GetLevel コマンドを使用して、VxMS ログが有効になっていることを確認します。VxMS ログが有効な場合の GetLevel コマンド出力は次のようになります。

```
VxMS debug level is TRC_TOP|PARAM_IN|PARAM_OUT|DEBUG|PARAM_FULL
```

VxMS ログを無効化する方法

- 1 NetBackup Appliance のシェルメニューの Support > Logs ビューから、次のコマンドを実行します。

```
SetLevel VxMS 0
```

- 2 GetLevel コマンドを使用して、VxMS ログが無効になっていることを確認します。VxMS ログが無効な場合の GetLevel コマンド出力は次のようになります。

```
VxMS debug level is disabled
```

p.34 の「[NetBackup Appliance のログファイルについて](#)」を参照してください。

アプライアンスパッチのログファイルについて

パッチのログファイルには、ソフトウェアアップグレードまたはロールバックプロセスの情報が含まれます。アップグレードまたはロールバックプロセス中に問題が発生した場合、このログファイルを参照できます。パッチログは `/log/patch<time_stamp>` です。この `time_stamp` 変数は生成されたログファイルの日時を定義しています。

パッチログを表示する方法は、ソフトウェアリリースラインによって少し異なる場合があります。

- 2.5.x アップグレードの場合:
2.5.x リリースラインのパッチログを表示するには、NFS ログの共有方法を使用します。
- 2.6.x.x アップグレードの場合:
`/log/patch<time_stamp>` はトラブルシューティングの情報源です。また、`Vxlogview` を `[SWUpdate]` と一緒にキーワードとして使用することもできます。
2.6.x.x からアップグレードする場合、次のいずれかのオプションを使用してパッチログファイルにアクセスします。
 - NFS ログの共有方法
 - DataCollect ログ - NetBackup Appliance Shell Menu および NetBackup Appliance Web Console から DataCollect にアクセスします。NetBackup Appliance Shell Menu から `Main_Menu > Support > DataCollect` コマンドを実行するか、NetBackup Appliance Web Console から「アプライアンス診断センター (Appliance Diagnostics Center)」ウィザードを実行します。

パッチログファイルの処理について詳しくは、シマンテック社のテクニカルサポートにお問い合わせください。

p.30 の「通常のアップグレードに関連する問題のトラブルシューティング」を参照してください。

NetBackup Java のアプリケーションに関する情報の参照場所

NetBackup Java アプリケーションに関する問題が発生した場合は、次の方法を使ってサポートに提示するデータを収集します。

次のスクリプトを情報収集のために利用できます。

jnbSA
 (NetBackup-Java 管理アプリケーションの起動スクリプト)

データのログを
 /usr/opensv/netbackup/logs/user_ops/nbjlogs
 のログファイルに記録します。起動時に、スクリプト
 はこのディレクトリ内のどのファイルにログが記録さ
 れるかを知らせます。通常、このファイルは 2 KB
 以下で、それほど大きいサイズにはなりません。こ
 のログファイルの内容に影響する可能性があるオ
 プションについて
 は、/usr/opensv/java/Debug.properties
 ファイルを参照してください。

Windows での NetBackup-Java 管理アプリケーション

アプリケーションが開始されたコンピュータに
NetBackup がインストールされている場合は、ロ
 グファイルにデータのログを記録します。
install_path\NetBackup\logs\user_ops\nbjlogs
 にログオンします。**NetBackup** がこのコンピュータ
 にインストールされなかった場合、ログファイルは
 作成されません。ログファイルを生成するには、次
 の最後の "java.exe" の行を修正して、出力をファ
 イルにリダイレクトするようにします。
install_path\java\nbjjava.bat

/usr/opensv/java/get_trace

分析をサポートするために **Java** 仮想マシンのス
 タックトレースを提供します。このスタックトレース
 は、実行のインスタンスに関連付けられるログファ
 イルに書き込まれます。

/usr/opensv/netbackup/bin/goodies/support

発生したあらゆる問題をデバッグするために、テク
 ニカルサポートにとって必要となるデータが含まれ
 たファイルを作成します。詳しくは、support -h
 を使う場合のスクリプトの使用法に関する情報
 を参照してください。

シマンテック社のテクニカルサポートが分析を行うために利用するトラブルシューティング
 データを、どのように収集できるかについて、次の例で説明します。

アプリケーションが応答しま 操作がハングアップされていると考える前に数分間待機します。一
 せん。 部の操作では、特にアクティビティモニターとレポートアプリケーション
 ンでの操作で、完了するまでにかかなり時間がかかる可能性があります。
 ず。

数分間経っても応答がありません。 **Java** アプリケーションを開始したアカウントの下で `/usr/opensv/java/get_trace` を実行します。このスクリプトによって、スタックトレースのログファイルへの書き込みが生じます。

たとえば、ルートアカウントから `jnbSA` を開始した場合、ルートとして `/usr/opensv/java/get_trace` を開始します。さもないと、コマンドはエラーなしで実行しますが、デバッグログにスタックトレースを追加できません。このエラーは、スタックトレースをダンプするコマンドを実行する権限があるアカウントがルートだけであるために発生します。

構成についてのデータを取得します。 `/usr/opensv/netbackup/bin/goodies/` サポートを実行します。**NetBackup** のインストールを完了した後と、**NetBackup** の構成を変更するたびに、このスクリプトを実行します。

シマンテック社のテクニカルサポートへ連絡します。 分析のために、ログファイルと `support` スクリプトの出力を提供します。

p.34 の「[NetBackup Appliance のログファイルについて](#)」を参照してください。

A

Appliance ログファイル
Browse コマンド 38

B

Browse コマンド
Appliance ログファイル 38

D

datacollect
デバイスログ 40

U

USB 大容量ストレージデバイス 30

V

VxMS ログ
有効化および無効化 42

あ

アップグレードガイド
について 6
アップグレードの失敗
推奨処置 30
アップグレード後の確認 29
アップグレードの注意事項
既知の問題 14
アプライアンスアップグレード
ガイドラインおよびベストプラクティス 8
ハードウェア要件 11
アプライアンスのサーバーまたはクライアントパッケージ
直接ダウンロード 17
インストール
シェルメニュー 26
ウィザード
[ログファイルを収集 (Collect Log files)] 36

か

ガイドラインおよびベストプラクティス
アプライアンスアップグレード 8
クライアント共有
ソフトウェア更新のダウンロード 19

さ

事前チェック
アプライアンスソフトウェアのアップグレード 12
ストレージおよびカタログ領域
アップグレード要件 11
ソフトウェアアップグレードの新機能 7
ソフトウェア更新
NetBackup Appliance Web Consoleからのインス
トール 22
NetBackup Appliance Web Consoleからのダウン
ロード 17
ソフトウェア更新のダウンロード
NetBackup Appliance Web Consoleから 17
クライアント共有の使用 19
ソフトウェア更新を管理します
NetBackup Appliance Web Consoleからのインス
トール 22
ソフトウェアコマンド
ダウンロードしたリスト 26
リストのアドオン 26
ソフトウェア要件
アプライアンスアップグレード 12

た

ダウンロード方法
リリース更新 16
直接ダウンロード
アプライアンスのサーバーまたはクライアントパッケー
ジ 17
トラブルシューティング
一般的な問題 60
推奨処置 30

は

パッチのログファイル

2.5.x アップグレード

2.6.x アップグレード 43

ハードウェア要件

アップグレードのため 11

ら

ログの収集

datacollect 40

NetBackup Java のアプリケーション 43

コマンド 37

ログの種類 37

ログファイルの場所 37

ログファイル

VxMS ログの有効化および無効化 42

概要 34

[ログファイルを収集 (Collect Log files)] 36